

プシユケ

沖縄県立開邦中学校二年 嶺井 美桜

おおきなちやうを追いかけた
ひろいひろい草の中
ひろいひろい空の下
ひろいひろい海のそば
一匹のちやうを追いかけた

海の向こうにある景色
ここには無い電車
ここには無い雪
海の向こうへ抱く憧れ

お兄ちゃんもお姉ちゃんも
みんな一緒に船に乗る
おばあちゃんとお母さんに
またね
と大きく手を振った

酷い音に目が覚めた
ゆっくりと船が沈んでいく
高い高い船の上
深い深い海へと
みんなで一緒に飛び込んだ――

『あの日』を生きた彼は言う
一緒にヤマトへ向かった家族は皆
ただいまを言うことが出来なかったと

彼は幼くして家族を失った
どれだけ辛かっただろう
きつく閉めた箱をゆっくりと開ける
彼の声からは
悲しみが
強い決意が
感じられた。

一匹の蝶が葉に寄り添う
柔い柔い絨毯で
気持ち良さそうに欠伸する
夢い命がそこにある

私の住む地
ここが地上戦の舞台となったあの日を
今見える景色からは
想像できない

今窓の外には
子供の遊ぶ声
島ぞうりが地面を叩く音
カラスの声
六時の鐘が響き
茜に染まる景色が広がる

『あの日』の外は何色だったのだろう
人の声
きつとそれは悲鳴で
響く音
きつとそれは銃声で
染まる色
きつとそれは恐怖に満ちた赤い色――

私はあの日を学ぶ時
戦争のことが頭の中を占めて
胸は締めつけられ
視界はどんどん滲んでいく

友達との何気ない会話。
休日明けは少し憂鬱で
でも一週間の終わりは達成感に満たされて。
難しい問題に頭を抱えて
大変だけど楽しくて。

そんな今と何等変わりない
生活をして
平和の中で生きていたのではないか。
そんな人々の平和は瞬く間に奪われた

そんなこと二度とあってはいけない
過去を変えることはもうできない
ならば平和を築くことが
今を生きる私の使命だ
そう心に強く刻んだ

大きな蝶が飛び立った
広い広い草の中
広い広い空の下
広い広い海のそば
一匹の蝶が飛び立った
光に向かって飛び立った